

大ニユウ

シネスコ版

道新石ノ3

冬もつけるフリ際
。 雖進が耳道勢ノ14回同国併終了。 700円
No. 303

高新石ノ38

本編同V.

34.11.-6

逃亡五〇〇〇キロ

一 鮎川派選挙違反

総額一億円に及ぶといわれている鮎川金次郎氏派の売収容疑事件のカギを握る人物として、当局が全国に指命手配をしていた上野、川合の両氏は、意外にも沖繩で捕まり十一月一日羽田空港に強制送還されました。

両氏は、十五トンの漁船を買い、魚商人に化けて脱出、台風もものかわトカラ群島の島づたいに奄美大島へさらに沖繩へと、当局の意表をついて逃げ廻ること五〇〇〇キロに、費した逃走資金は二、三〇〇万円とみられています。

両氏が捕まると当の金次郎氏は、ゼンソクの治療を理由にハワイへの渡航手続をとつたため、東京地検は急提出頭を求めて、取調べを行いました。両氏の取調べによつて、鮎川派の違反の全ぼうが明らかになるものとみられています。一億円の売収容疑といい、二千万円を費した五千キロの逃避行といい、それまでにして当選しなくてはならないものか、常識では割切れません。

晩秋

東京・北海道

曇天つづきのシルバー・ウィーク。それでも飛石連休とあつて、どこの会場も、秋の名残りを惜んで、多彩な行事が披露されました。
また、皇居内では、菊香る文化の日を記念して、文化勲章の授章が行われ、今年、日本の川端童子、作家の里見厚氏ら五人が選ばれました。
こちら、北海道の島牧では、賑やかなソーラン節にのつて、ノブリ漁のシーズンを迎え、と、やがて 北国の冬は駆足でやつてくるのです。

日本の群像

栄光のナイン

無敗でかちえた日本選手権。
思えば実に九年ぶり、初の快挙である。
十月二十九日、夕暮れ迫る後楽園は、明暗を染め分けて悲喜こもごもの表情にうつまつた。この日、三回に早くも一点を先行した南海は、七回にも巨人の乱れに乗じて追加点を重ねた。どこからでも打込めるゆるぎない打線と俊敏な機動力に物をい寄せた見事な速攻だった。鶴岡監督、快心の采配でもある。

チャンピオン・ジャイアンツに挑戦しながら自から軍門に下ること四度、宿敵ジャイアンツを目標して雌伏四年、念願の大型打線は、お家芸の脚力とあいまってここに遺憾なく威力を発揮したのである。

こうして南海は、ストレートに四勝をあげ、球史にさんたる記録を残した。その蔭には、勝利への異常なまでの執念と、命令下一糸乱れぬ結束があつた。

花吹雪と割れるような歓呼のなかを、鶴岡親分を先頭に夢にまで見た御堂筋のパレード。黄色くいろすいた銀杏並木は、南海ナインにとつて、まさに男の花道でもあつたであらう。

7/20

361

158

178